

# 2014年度 センター試験 地学I (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：5題	解答数：30問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ● やや難化	○ 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	● あり	○ なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<b>総評</b> 1. 従来通り、大問1題に1つの分野が対応している問題である。解答数も昨年と同じ30であった。 2. 各大問の中の出題テーマは、昨年と同じくそれぞれA・Bの2つずつであった。 3. 出題形式については、選択肢が多い設問が昨年より増加した。 4. 問題や選択肢において図やグラフが使われる設問が増えた。丁寧な読みとりが必要とされ、中には高度な考察を要する設問も見受けられた。 5. 計算問題もやや難しくなり、全体としてやや難化傾向であった。			

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	固体地球 A-地球内部の熱とプレート B-地球の大きさと重力	20点	A. 地球内部構造に関する知識と、地球内部の温度・圧力に関する問題。 B. 「エラトステネスによる地球の大きさの測定」に関する定番の問題と、引力・遠心力・重力に関する問題。いずれも基礎的な問題である。
第2問	岩石・鉱物 A-変成岩 B-マグマの発生と火山	20点	A. 図とグラフを関連づけて考察することが要求され、かなり高度な問題と言える。 B. マグマ発生の温度・圧力条件グラフの読み取りと、火山分布に関する問題で標準的な問題。
第3問	地質・地史 A-地層 B-地層と化石	20点	A. 走向・傾斜を図形的に読み取り、地下の構造を推定する。空間把握の力が問われている。 B. 柱状図と古生物の生存期間の図を適切に用いて地層の対比をさせる問題。図を慎重に読み取らなければ、正解にいたるのは難しい。
第4問	大気・海洋 A-山を越える気流と雲 B-太平洋赤道域の海洋と大気	20点	A. 前半は断熱減率をもとに大気の安定性を判断させる問題。正確な知識に基づく思考力が問われた。後半は地上天気図から風向を推定させる問題。 B. エルニーニョ現象に関する基礎知識を問う問題。
第5問	天文 A-太陽系 B-宇宙と銀河	20点	A. 惑星の運行・視運動・惑星現象の基礎知識とケプラーの法則に関する標準的な計算問題。天体の動きと天球の概念を合わせて理解しているかを問う問題。 B. 宇宙の誕生・宇宙の年齢・膨張宇宙に関する基礎知識を問う問題。ただ、問5の計算問題は「ハッブルの法則」と「明るさと距離との関係」を組み合わせで解くので、多少の難しさを感じた受験生もいたはずである。